

H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

H24-D1-5 深度10.19~10.21m 薄片作製位置

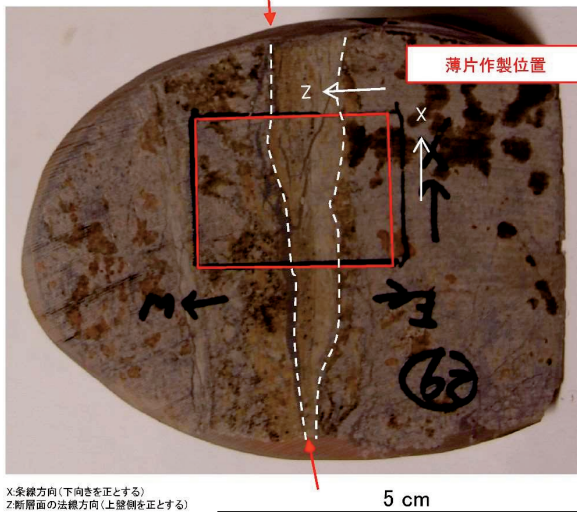
・薄片は断层面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※ 断层面
 ※:写真上は白色で記載

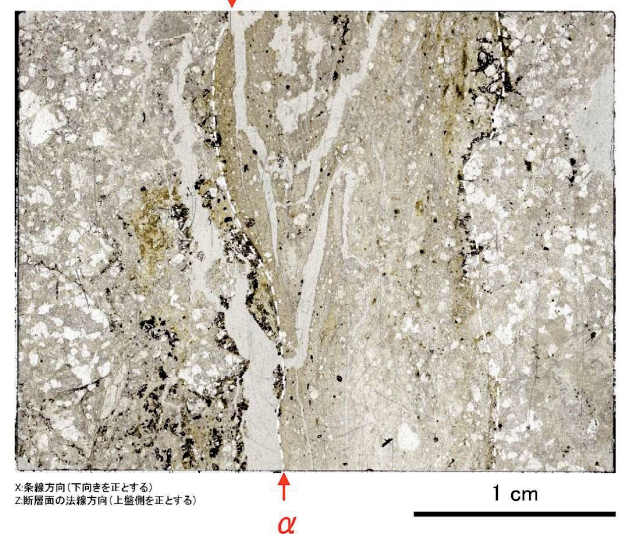
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例
 断层面 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
 ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)

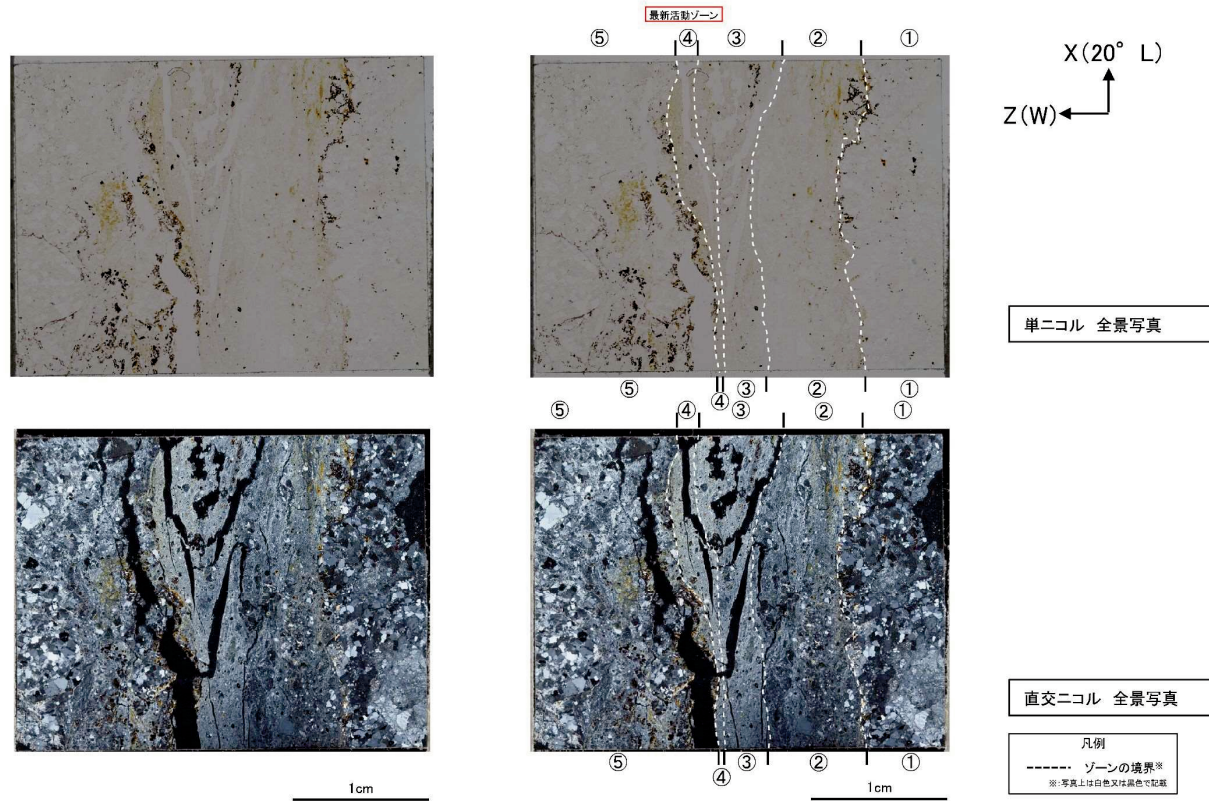


X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

H24-D1-5 深度10.19~10.21m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、粘土鉱物は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は多いが、③のゾーンに比べ少ない。粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は多いが、④のゾーンに比べ少ない。粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・④のゾーンは、粘土鉱物の量は多く、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく、丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・⑤のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ④のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



H24-D1-5深度10.19~10.21m 最新活動面の深度 (No.最-35) を変更

H24-D1-5 深度10.19~10.21m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度10.20mにおける断層面α沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面A, Y面Bが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性にやや富み、連続性に富む。細粒部を伴う。Y面Bに比べて連続性に富む。
- ・Y面Bは直線性に富み、開口部が多く連続性に乏しい。細粒部を伴う。
- ・以上のことから、Y面Aを最新活動面と認定した。
- ・最新活動面と鉱物脈の関係について、次頁に示す。



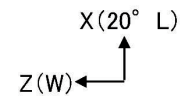
直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

1cm



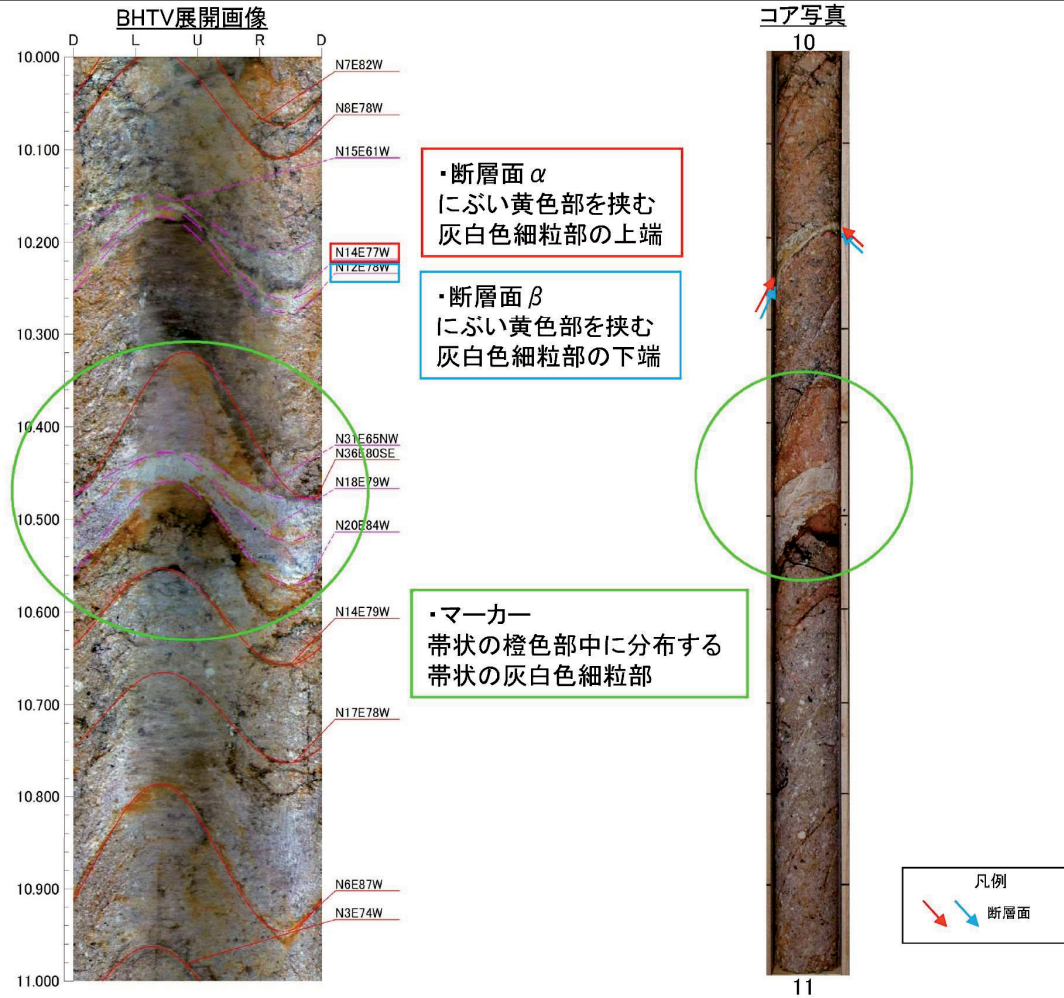
※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

- 凡例
- Y面A
 - Y面B
 - - - 最新活動ゾーン※
- ※: 写真上は白色又は黒色で記載

H24-D1-5深度10.19~10.21m 走向・傾斜 (No.最-36) を変更

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-5 深度10.19~10.21m)

- ・ H24-D1-5 深度10.19~10.21mの破碎部の断層面 α の走向・傾斜はN14° E77° Wである。
- ・断層面 β の走向・傾斜はN12° E78° Wである。



1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面を断層ガウジの下端に変更 (No.最-37)
(深度差1cm以下のため、深度標記は変更なし)

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.最-37)
- b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.最-37)

H24-D1-5 深度47.47~47.89m 最新活動面の深度 (No.最-37) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

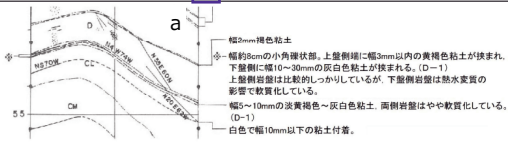
参考資料2 性状一覧表

参考2-35頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

2.D-1破砕帯 性状一覧表(7/12)

試料番号	深度 (m)	試料長さ (m)	試料径 (mm)	試料形状	試料状態	試料色	試料質	試料硬	試料強	試料注	試料備	最新活動面		試料番号
												最新活動面	最新活動面	
H24-D1-5 (複製品)	118.11	118.25	H20C	27W	12.3	1.0	青	軟平滑	BDL	正	右	119	120	
H24-D1-5 (複製品)	15.91	16.30	H15W	33W	31.8	2.5	青	軟平滑	BDL	正	右	15	16	
H24-D1-5 (複製品)	15.91	16.30	H15W	33W	31.8	2.5	青	軟平滑	BDL	正	右	15	17	
H24-D1-5 (複製品)	23.91	24.42	H15W	33W	31.8	2.5	青	軟平滑	BDL	正	右	23	24	
H24-D1-5 (複製品)	23.91	24.42	H15W	33W	31.8	2.5	青	軟平滑	BDL	正	右	23	25	
H24-D1-5 (複製品)	47.47	47.89	H1E	30W	17.2	2.0	青	軟平滑	BDL	正	-	47	48	



凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕帯
 ← → : 断層ガワジ
 ○ : 粘土の存在物が認められる箇所
 *1 : 図説
 *2 : 詳細

【破砕帯】
 粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯の存在の有無とし、破砕帯の方向情報から真の層に換算した。
 【断層】
 平滑 : 最新活動面が僅かなもの
 非平滑 : 最新活動面が顕著なもの

参考2-35

No.最-37

(赤矢印位置)

(No.135で説明)

試料番号	深度 (m)	試料長さ (m)	試料径 (mm)	試料形状	試料状態	試料色	試料質	試料硬	試料強	試料注	試料備	最新活動面		試料番号
												最新活動面	最新活動面	
H24-D1-5 (複製品)	8.91	9.31	H20C	30W	12.3	1.0	青	軟平滑	BDL	正	右	9	10	
H24-D1-5 (複製品)	10.19	10.21	H14E	70W	1.2	0.5	青	軟平滑	BDL	-	左	10	11	
H24-D1-5 (複製品)	10.60	10.60	H20C	30W	12.3	1.0	青	軟平滑	BDL	正	右	10	11	
H24-D1-5 (複製品)	47.47	47.89	H1E	30W	17.2	2.0	青	軟平滑	BDL	正	-	47	48	

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値 正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載 (真成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外): データを取得していない箇所

凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕帯
 ← → : 断層ガワジ
 ← → : 断層角礫

H24-D1-5 深度47.47~47.89m 最新活動面の深度 (No.最-37) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

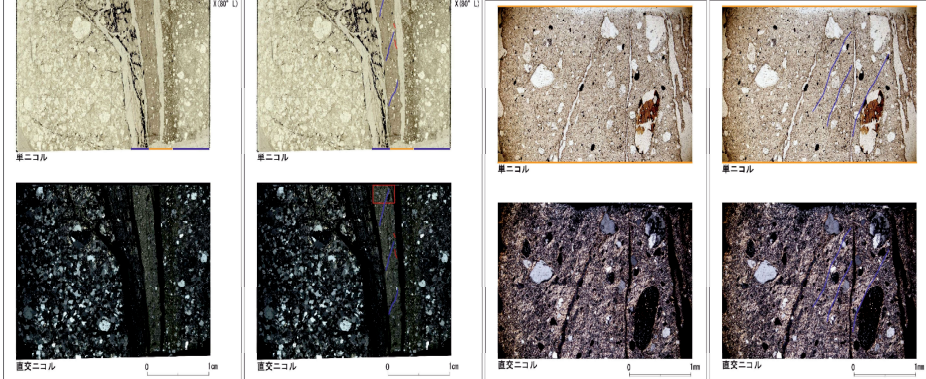
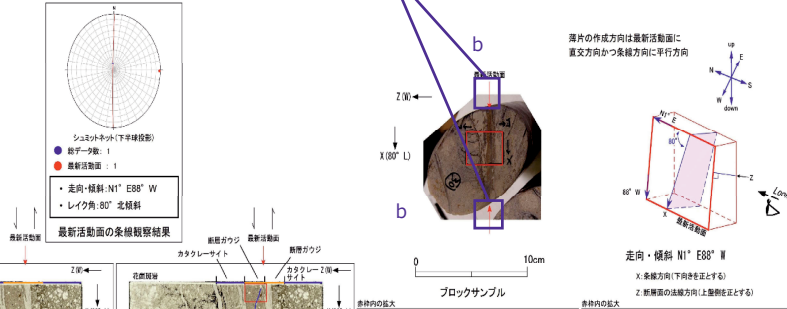
参考1-36 頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.最-37

(赤矢印位置)

H24-D1-5のボーリングコア(深度47.47m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



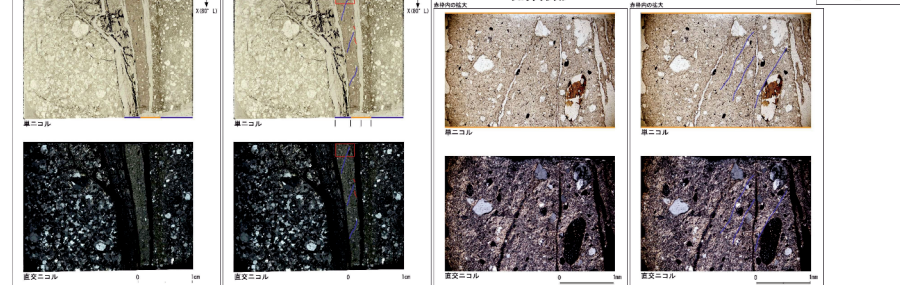
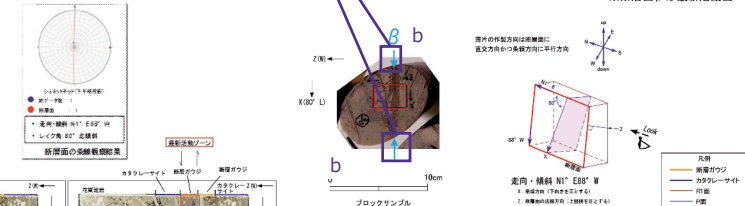
凡例
 断層ガウジ
 カタレーサイト
 R1面
 P面

参考1-36

No.最-37

(青矢印位置)

H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジ
 > (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ)粘土状物の分布は帯状で直線的である。
 > 岩片は少ない。
 > (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。



第7.4.4.348図(3) 破砕部性状 H24-D1-5 深度47.47~47.89m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))